

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770103723		
法人名	医療法人社団青冥会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム第六若葉荘		
所在地	香川県高松市三谷町4551番地6		
自己評価作成日	令和7年10月25日	評価結果市町受理日	令和8年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の周辺にはのどかな田園風景が広がっており、静かな環境である。花や野菜を栽培しており、収穫した野菜を料理に使ったり、天気の良い日は外に出て花を見たり、のんびりとした時間を過ごされている。また、レクで手作りおやつ(おはぎ、パンケーキ、たこ焼き等)などを作って提供している。  
近くに協力医療機関があり、連携体制が整えられている。介護度の高い方も医療機関と連携し、個々の状態に沿った支援を行っている。

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アストリーム・アライアンス		
所在地	香川県さぬき市津田町2360-111		
訪問調査日	令和7年12月3日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所が点在している山手の日当たりの良い静かな場所に位置し、周囲は田畑があり民家が望める環境にある。事業所は運営主体の医療法人に属し、医療の必要な方も入所されており、月1回の定期受診や週1回の看護師による訪問、緊急時の応援体制などにて、利用者や家族等の信頼を得ている。長く生活されている入所者も多く、馴染みの関係が構築されており、穏やかに過ごす時間の中で、互いに阿吽の呼吸で過ごされている雰囲気が伝わってくる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につく場所に理念を掲示しており、日々の生活の中で理念に基づいた介護の実践を行っている	運営方針とグループホーム理念は出入口やリビングに表示されている。理念は「挨拶から始まる」・「地域交流」が掲げてあり、実践を通じて職員間で共有されている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	あまり交流できていない	コロナ禍以降、感染症対策により地域との交流事業は機会が少なくなっている。地域の敬老会やイベントへの参加は民生委員を通じて行われている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方や民生委員の方に出席していただき、入居状況を説明し、支援方法について話し合い、助言をいただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で民生委員や市の方々から地域の情報をいただき、サービスの向上に活かしている	運営推進会議外部の参加者が包括支援センター職員と民生委員の3名であり、自治会や利用者・家族の参加がなく、参加者が固定されている	運営委員会へ自治会や利用者、家族等関係者の参加が増す事や議題や開催方法の工夫を通じて更にサービス向上と相互理解の発展に繋がることに期待します
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事があればすぐに連絡を取り、相談を行っている	運営推進会議や法人の事務局を通じて、相互に理解があり、わからないことは連絡を取り合い相談できる環境が構築されている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所全体として身体拘束を原則禁止している。定期的な研修を行い参加している。3ヶ月に1回身体拘束対策委員会を行い、身体拘束について話し合っている	規程に従い、3か月に1回の委員会や研修を通じて、身体拘束をしないケアが実践されている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修に参加して、自己啓発に努めている。常に職員間で話し合いをして、見守りを十分に行い、見逃しがないように注意を払い、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の方と連絡を取り合い、入居者の権利が損なわれないよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明等を十分に行い、不安や疑問点を確認して理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日々の生活の中での話を聞き、事業所に意見箱を設置したり、家族の方に面会や電話時に意見や要望を聞き、それらを反映するよう努めている	日頃から利用者との会話やコミュニケーションが大切にされている。家族の面会では日頃の様子を報告して、意見等を伺っている。また、電話でも同様の対応がなされている。聞いた意見や要望は職員や上司と話し合い、早急に反映がなされている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営については管理者会議や職員の意見を提案できる機会を設け、反映するよう努めている	職場や職域ごとに、会議や研修、相談の機会が確保されており、意見が反映される仕組みとなっている。また人事評価を取入れ、一人ひとりが働きやすい職場づくりに努められており、手当にも反映されている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が働きやすくやりがいがあり、各自が向上心を持って働けるように賞与等に反映したり、就業規則の見直しを行い、働きやすい環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修は、外部より講師を招いて毎月行い、外部研修にも参加を勧めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流はあるが、外部の同業者については交流はできていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との話の中で不安や要望等を聞き、安心を確保するための関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とよく話し合い、困っていることを聞き、不安や要望等に耳を傾け、関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族と話し合い、まず必要としている支援の対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から昔の生活の知恵などの助言をいただきながら、職員とともに簡単な家事などを行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた時に状況等を報告し、支援策をお互いに話し合っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人の方の協力により関係が保てている方もいるがお互い歳もとり連絡が取れない方もおり希薄になっている	電話や手紙の取次や友人家族にあてた連絡支援を行っていたが、加齢に伴い年々関係者が減少している方もおられる現状にある	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の要望などを聞き入れ、利用者同士がうまくコミュニケーションが取れるよう声かけを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退居された場合は、必要に応じてご家族と連絡を取り合い、相談や支援に努めている。ご家族の要望に応え、安全な情報開示に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にコミュニケーションを取り信頼関係を築き、困難な方は表情から汲み取り、利用者の暮らし方の希望、意向の把握に努めている	長期の居住者が多く、生活パターンが出来る。職員としては視点を変えて、一層利用者の意向の把握に努められている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から話を聞いたり、本人から可能な限り話を聞いて、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らしに近づけるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できるだけ一人ひとりが、自分の意思のもとで一日一日を過ごせるよう支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に本人を交えご家族等の要望を聞き入れたうえで介護計画を作成し、必要に応じてその都度見直しを行っている	月1回の会議でユニット全体の見直しや利用者の評価が行われている。利用者や家族等の意見も参考にして、話し合いが持たれている。計画作成は担当ケアマネが総括して行っている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態を詳しく介護記録や申し送りノートに記入し、情報を共有し意見交換をしながら見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対して、関係者間で話し合いながら支援に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の委員の方の情報により催事、行事に参加出来る様に支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回定期受診を行っている。急変時や体調不良時など医師に相談し、受診の指示を仰いでいる。また、できるだけ本人、ご家族の希望する病院に受診できるよう努めている	入所時に受診、その後も月1回は定期的に受診がなされており、週1回の看護師による状態確認も行われている。また、急変時にも医師に連絡が取れる体制が構築されている。他の病院受診には家族と共に送迎などの支援も行われている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師が訪問に訪れて利用者の状態を見て確認している。利用者の状態を相談し、アドバイスや指示を頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、時々面会に訪れ状態を把握するよう努めている。医師、看護師に話が聞ける体制ができている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化等、状態に変化が見られるようになった際は、ご家族に連絡し相談しながら、できるだけ支援ができるよう病院と連絡を取っている	入所時より利用者や家族等に重度化による対応が尋ねられている。また、状態の変化に合わせた相談や話し合いの機会が持たれており、医師の意見や本人・家族の意向に寄り添った支援に努められている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、協力病院とすぐに連絡を取り、指示を仰げる体制づくりができている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防火訓練を行っている。非常食、非常用の水、停電時の非常用電源を用意している。BCP委員会を設け委員が非常時に対応出来る様行っている	担当者が災害や防火管理者の資格を取得、避難訓練の企画実施や、BCP計画の委員会にも参画されている。年間2回は避難訓練を実施しており、水食糧の備蓄状況の把握や定期的な点検も行われている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の気持ちを持って接し、個々の人柄を尊重し、言葉遣い等に気をつけるよう心掛けている	本人の意向を尊重して、その人の日々の生活の支援に努められている。自分で出来ることは安全確認をして、職員はゆっくり見守られている。利用者の気遣いに対してなど、感謝やいたわりの心を言葉にして表現がなされている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに話しかけ、傾聴し、表現や自己決定ができる雰囲気を作るなどの支援をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本は事業所の一日の流れによるサービスを行っているが、できるだけ本人の希望に添えるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗髪、髭剃り介助の他に、ご本人の好きな洋服を着て頂いたり入浴後は服が被らない様に支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みに応じてご飯にふりかけやのりをかけたりしている。手伝いのできるご利用者の方にはテーブルやお膳を拭いていただくなど簡単な手伝いをして頂いている	食事は業者が納品し、食事の形態も考慮され、本人が希望した場所で食べられている。おやつレクリエーションはおはぎやホットケーキ、たこ焼きなどを作り喜ばれている。食事の準備やかたづけは自主的に手伝う雰囲気がある	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の定期受診時に医師のアドバイスをもらい栄養状態に注意を払い食事が摂れない方には栄養補助食品の提供を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方は週1回訪問歯科を利用している。個々の口腔ケアについては、歯科医にアドバイスをもらい実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない方もトイレ誘導し排泄を促している。時間や習慣を職員全員で把握し、声かけを行っている	排泄は記録により個別に把握され、排泄パターンや習慣、サインに合わせて、トイレに誘導して排泄が出来るよう支援に繋がられている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し、水分補給や椅子に座って行える運動をしたり、内服薬等で排便がスムーズになるよう取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向が尊重できる範囲で入浴日、入浴時間を取り決め実施している	週2回の入浴は基本として、個別入浴が実施されている。また身体状況により、一般浴と特浴を実施、週1日休みの日以外は入浴支援がなされている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望を聞き入れ、個々の体調や状況によりその時々に応じた入眠ができるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をカルテにファイルしており、変更になった場合目的や用途を申し送りしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるよう個々の趣味や能力を把握し、季節に合ったレクリエーションなどの支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は十分にできていないが、お買い物やドライブ、日光浴など、できるだけ外出出来る様支援している	天気の良い日には日光浴をしたり、近所への散歩が行われている。また、お買い物や季節ごとに公園へのドライブなどの支援も行われている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理している。利用者が希望すれば一緒に買い物に行き、個々で購入できるよう支援している。職員が代理で希望の物を買っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話や手紙など取り次ぎしている。本人の希望があれば事務所で電話するなど支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた花や写真、絵などを飾っている。馴染みのある音楽やビデオをかけて、居心地よく過ごせるようにしている	個々の生活パターンに合わせたそれぞれの心地よい居場所が決まっているようで、リビングで趣味に没頭される方や、ビデオを見たりして、過ごされている。また、用事があるときに顔をだす人もいるなど、自然と自分のスタイルが出せやすい環境の整備と支援がなされている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の場所は決まっているが、レクリエーションや利用者同士が話をする時は、自由に動けるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の使い慣れた物や写真を飾るなどして、居心地良く過ごせるよう工夫している	入口は名札ケースがあり、室内はベッドやロッカー、低床のダンスがある。清潔で室内は広く、車いすの操作も可能である。使い慣れた私物や写真を飾り、ゆっくり寛げる空間となっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自身で移動できる方は、トイレに近い居室にしている		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 みの 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある ○ 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につく場所に理念を掲示しており、日々の生活の中で理念に基づいた介護の実践を行っている
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	あまり交流できていない
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方や民生委員の方に出席していただき、入居状況を説明し、支援方法について話し合い、助言をいただいている
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で民生委員や市の方々から地域の情報をいただき、サービスの向上に活かしている
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事があればすぐに連絡を取り、相談を行っている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所全体として身体拘束を原則禁止している。定期的な研修を行い参加している。3ヶ月に1回身体拘束対策委員会を行い、身体拘束について話し合っている

7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修に参加して、自己啓発に努めている。常に職員間で話し合いをして、見守りを十分に行い、見過ごさないように注意を払い、防止に努めている
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の方と連絡を取り合い、入居者の権利が損なわれないよう支援している
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項の説明等を十分に行い、不安や疑問点を確認して理解を得ている
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日々の生活の中での話を聞き、事業所に意見箱を設置したり、家族の方に面会や電話時に意見や要望を聞き、それらを反映するよう努めている
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営については管理者会議や職員の意見を提案できる機会を設け、反映するよう努めている
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が働きやすくやりがいがあり、各自が向上心を持って働けるように賞与等に反映したり、就業規則の見直しを行い、働きやすい環境作りに努めている
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修は、外部より講師を招いて毎月行い、外部研修にも参加を勧めている
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流はあるが、外部の同業者については交流はできていない

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援		
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p> <p>本人との話の中で不安や要望等を聞き、安心を確保するための関係づくりに努めている</p>
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p> <p>ご家族とよく話し合い、困っていることを聞き、不安や要望等に耳を傾け、関係づくりに努めている</p>
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p> <p>本人、ご家族と話し合い、まず必要としている支援の対応に努めている</p>
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p> <p>利用者から昔の生活の知恵などの助言をいただきながら、職員とともに簡単な家事などを行っている</p>
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p> <p>ご家族が面会に来られた時に状況等を報告し、支援策をお互いに話し合っている</p>
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p> <p>家族や友人の方の協力により関係が保てている方もいるがお互い歳もとり連絡が取れない方もおり希薄になっている</p>
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p> <p>個々の要望などを聞き入れ、利用者同士がうまくコミュニケーションが取れるよう声かけを行っている</p>

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退居された場合は、必要に応じてご家族と連絡を取り合い、相談や支援に努めている。ご家族の要望に応え、安全な情報開示に努めている
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にコミュニケーションを取り信頼関係を築き、困難な方は表情から汲み取り、利用者の暮らし方の希望、意向の把握に努めている
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族から話を聞いたり、本人から可能な限り話を聞いて、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らしに近づけるよう努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できるだけ一人ひとりが、自分の意思のもとで一日一日を過ごせるよう支援に努めている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時に本人を交えご家族等の要望を聞き入れたうえで介護計画を作成し、必要に応じてその都度見直しを行っている
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状態を詳しく介護記録や申し送りノートに記入し、情報を共有し意見交換をしながら見直しに活かしている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対して、関係者間で話し合いながら支援に取り組んでいる

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の委員の方の情報により催事、行事に参加出来る様に支援している
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回定期受診を行っている。急変時や体調不良時など医師に相談し、受診の指示を仰いでいる。また、できるだけ本人、ご家族の希望する病院に受診できるよう努めている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師が訪問に訪れて利用者の状態を見て確認している。利用者の状態を相談し、アドバイスや指示を頂いている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、時々面会に訪れ状態を把握するよう努めている。医師、看護師に話が聞ける体制ができています
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化等、状態に変化が見られるようになった際は、ご家族に連絡し相談しながら、できるだけ支援ができるよう病院と連絡を取っている
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、協力病院とすぐに連絡を取り、指示を仰げる体制づくりができています
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防火訓練を行っている。非常食、非常用の水、停電時の非常用電源を用意している。BCP委員会を設け委員が非常時に対応出来る様に行っている

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>人生の先輩として尊敬の気持ちを持って接し、個々の人柄を尊重し、言葉遣い等に気をつけるよう心掛けている</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者一人ひとりに話しかけ、傾聴し、表現や自己決定ができる雰囲気を作るなどの支援をしている</p>
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本は事業所の一日の流れによるサービスを行っているが、できるだけ本人の希望に添えるよう支援している</p>
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>洗髪、髭剃り介助の他に、ご本人の好きな洋服を着て頂いたり入浴後は服が被らない様に支援している</p>
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>個々の好みに応じてご飯にふりかけやのりをかけたりしている。手伝いのできるご利用者の方にはテーブルやお膳を拭いていただくなど簡単な手伝いをして頂いている</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>月1回の定期受診時に医師のアドバイスもらい栄養状態に注意を払い食事が摂れない方には栄養補助食品の提供を行っている</p>
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>必要な方は週1回訪問歯科を利用している。個々の口腔ケアについては、歯科医にアドバイスをもらい実践している</p>

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない方もトイレ誘導し排泄を促している。時間や習慣を職員全員で把握し、声かけを行っている
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し、水分補給や椅子に座って行える運動をしたり、内服薬等で排便がスムーズになるよう取り組んでいる
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向が尊重できる範囲で入浴日、入浴時間を取り決め実施している
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望を聞き入れ、個々の体調や状況によりその時々に応じた入眠ができるよう支援している
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報をカルテにファイルしており、変更になった場合目的や用途を申し送りしている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえるよう個々の趣味や能力を把握し、季節に合ったレクリエーションなどの支援をしている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は十分にできていないが、お買い物やドライブ、日光浴など、できるだけ外出出来る様支援している

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金は事務所で管理している。利用者が希望すれば一緒に買い物に行き、個々で購入できるように支援している。職員が代理で希望の物を買に行っている</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族からの電話や手紙など取り次ぎしている。本人の希望があれば事務所で電話するなど支援している</p>
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を取り入れた花や写真、絵などを飾っている。馴染みのある音楽やビデオをかけて、居心地よく過ごせるようにしている</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食事の場所は決まっているが、レクリエーションや利用者同士が話をする時は、自由に動けるよう工夫している</p>
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個々の使い慣れた物や写真を飾るなどして、居心地良く過ごせるよう工夫している</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自身で移動できる方は、トイレに近い居室にしている</p>